



第8号

平成28年12月15日
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司
(千葉県立柏高等学校校長)

今年度から新たに取り組むことになったワーキンググループ会議（分野別会議）を開催しました。第1回は、大学・専門学校関係者・工業系高校校長等により、「進学に必要となる学力とは」という協議題で意見交換を行いました。いただいた意見の一部を紹介します。

1

第1回ワーキンググループ会議

- 1 日 時 平成28年10月3日（月）14時～16時
- 2 会 場 千葉工業高等学校
- 3 出席者 大学・専門学校関係者 6名
工業系高校関係者 8名
- 4 協議題 「進学に必要となる学力とは」

工業高校出身の学生について

【 大学・専門学校 】

- 工業高校生は3年間、専門の実習授業に関する時間が長く、実習馴れしているというメリットがある。普通科卒業生と比べ取っ掛かりが非常に良い。
残念なのは、技術・やる気があるにも拘わらず基礎学力が足りないため各種資格試験の取得には苦勞している。
数学が非常に苦手だったが全体の評定が合格ラインに達しているため入学してくる生徒もいる。そのため入学直後から補習を行っている。
- 苦手なのは数学、物理で平均点としてはかなり低い。一般入試の入学生と比べると100点満点中、20点～30点位の差がある。点数に応じて習熟度別クラスを編成するが下のクラスに入る工業高校出身生徒の割合が高い。
また、地方の工業高校出身生徒と比べ、首都圏の生徒は劣っている。入ってきた時の学力が低いのか、入学後の努力が足りないのかまではわからない。
- AO入試等で見ると実習の力はかなり強い印象を受ける。
補習について、大学側から宿題を出す場合や、予備校と連携して事前にテストを行い学力が低い学生には3月から集中的に大学に来て勉強してもらう事もある。
- 学力不足で論文が書けない、レポートが書けない等、座学の部分で困難を感じている生徒もいる。工業高校であるがゆえに資格についても大切にしてほしい。

県内工業系高校の学力向上の取組・現状

【高校】

- ほとんどの生徒は、指定校推薦・AO入試等で入学している。合格後、各大学から事前学習ということで各種教材を送って頂き、それに取り組みさせているのが現状。高校として基礎学力向上に向けて何かを取り組んでいるという事は無い。
- 補習は大学合格が決まってから進路指導部の方でやってはいるが極端に学力が上がる程のことは無い。それよりも大学が決まる前に数回行う実力テストの方が生徒も真剣で、その勉強の方が身につけているかと思う。
- 千葉県の生徒は指定校推薦・AO入試等で入学が決まるとその後全く勉強をしなくなる。何とかしないと入学後困ってしまうとの危機感を各学校は持っている。
教員による面接指導について、個人面接の指導はできるが、集団面接・討論会・ディスカッションを指導するノウハウが全くないという意見が出ている。

他県の取組事例など

【大学・専門学校】

- 入学後うまくスタートできるかどうかは、入学までの勉強をどうしているかにかかっている印象をうける。
- 地方の高校では大学進学が決まった後に補習授業を多くやっていると聞いている。特に数学Ⅲについてはかなりの時間をかけている。
地方の生徒は面接も良くできる。首都圏の生徒と並べるとすぐ分かる。グループ面接をするとかなり差が出てくるケースが多々ある。

【高校】

- 静岡県工業系高校では学校での勉強だけではなく、自学・自習の習慣をつけさせている。また大学進学後学力不足で生徒が困らないように、AO等で合格後も2月末まで補習を行い、またセンター試験は必ず受けさせている。

その他

【大学・専門学校】

- 工業系高校出身の生徒は、一人前になるための時間が短い傾向にあるともいわれている。工業系高校の強みは普通高校には無い職種に対応出来るところが最も大きな強みだ。
- 地方の工業系高校生の学力が高いのは工業系高校の数が多いからだ。基礎学力が高い生徒が進学補習等もやってくるので当然学力は高くなる。このような現状をベースに、どうするかを考えるべき。
現在も工業系高校では素晴らしい取組を行っている。よりスポットがあたる工夫をし、アドバランを上げ、そこに優秀な生徒が集まるような手段を考えてはどうか。
高校だけの取組では難しいかもしれないが、県内には優秀な大学・優良な企業があり、協力いただける。アドバランと実績を上げる、その仕組み作りを本気でやれば変わる。

会議後の学校出席者の感想

【高校】

- 現状を理解しそれを共有することが出来た。対応としては、キャリア教育と進学補習に気合いを入れて徹底して実践するしかないと思う。
- 工業高校の未来について、高校側はもちろんだが大学や専門学校側も真剣に考えていることがわかった。
普通科同等に進学への意識がある家庭の入学者を増やすため、工業高校の現状を中学校側や保護者、受験生に正しく理解してもらうための取組が大切だと思う。
- 入学決定後の生徒に対する高校の指導については、貴重なご意見を頂いたと思う。
- 高校側で突っ込んだ議論をした後で大学・企業との話し合いを深めるステージに行くべきではないか。

2

平成28年度第33回総合技術コンクール

「平成28年度第33回総合技術コンクール」が11月19日に東総工業高校を会場に開催されました。各部門において参加した生徒が真剣に取り組み、日頃の成果を発揮していましたので、結果をお知らせいたします。

- 1 主催 千葉県高等学校工業教育研究会
- 2 共催 千葉県教育委員会
千葉県高等学校教育研究会工業部会
- 3 日時 平成28年11月19日（土）9：30～15：30
- 4 会場 千葉県立東総工業高等学校
- 5 参加校 京葉工業、千葉工業、千葉工業(定)、市川工業、市川工業(定)、清水、下総、東総工業、茂原樟陽、館山総合、君津青葉
- 6 大会参加者数

系 列	部 門	参加課程	参加生徒数
機 械	溶接	9 課程	18 名
	機械設計製図	9 課程	15 名
電 気	電気工事	8 課程	15 名
	電子回路工作	9 課程	21 名
化 学	化学分析	5 課程	10 名
建 設	測量	5 課程	17 名
	建築設計製図	3 課程	12 名
全 科	計算技術	7 課程	20 名
	ロボットコンテスト	8 課程	23 名
	ライントレースカー	8 課程	26 名
見 学 生 徒			2 名
参加生徒合計		11 課程	179 名

7 受賞者一覧

生徒名が記載されているため、HP掲載版では非表示としました。

【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】
事務局長（千葉工業高校教頭）田口 英彦
TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524